

スコアシート		実施設計段階					
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		全体		評価点	重み係数
		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質						2.9	
Q1 室内環境						3.2	
1 音環境				3.4	0.15	2.8	1.00
1.1 室内騒音レベル		-		3.0	0.40	3.0	0.40
1.2 遮音				5.0	0.40	3.6	0.40
1 開口部遮音性能		T-3性能のサッシを採用		5.0	1.00	5.0	0.30
2 界壁遮音性能		-		-	-	3.0	0.30
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	-	3.0	0.20
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	3.0	0.20
1.3 吸音		-		1.0	0.20	1.0	0.20
2 温熱環境				2.6	0.35	2.6	1.00
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0	0.50
1 室温		-		3.0	0.38	3.0	0.57
2 外皮性能		-		3.0	0.25	3.0	0.43
3 ゾーン別制御性		-		3.0	0.38	-	-
2.2 湿度制御		-		1.0	0.20	1.0	0.20
2.3 空調方式		-		3.0	0.30	3.0	0.30
3 光・視環境				3.6	0.25	3.6	1.00
3.1 屋光利用				4.2	0.30	4.2	0.30
1 屋光率		共用部5.21 住居部分1.27		5.0	0.60	5.0	0.60
2 方位別開口		-		-	-	-	-
3 屋光利用設備		-		3.0	0.40	3.0	0.40
3.2 グレア対策				4.0	0.30	4.0	0.30
1 屋光制御		カーテンに庇を組み合わせてグレアを制御		4.0	1.00	4.0	1.00
3.3 照度		-		3.0	0.15	3.0	0.15
3.4 照明制御		-		3.0	0.25	3.0	0.25
4 空気環境				3.9	0.25	3.8	1.00
4.1 発生源対策				4.0	0.50	4.0	0.63
1 化学汚染物質		内装材はほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用		4.0	1.00	4.0	1.00
4.2 換気				3.0	0.30	3.6	0.38
1 換気量		-		3.0	0.50	3.0	0.33
2 自然換気性能		1/10以上の開口		-	-	5.0	0.33
3 取り入れ外気への配慮		-		3.0	0.50	3.0	0.33
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-
1 CO ₂ の監視		-		-	-	-	-
2 喫煙の制御		屋内全面禁煙		5.0	1.00	-	-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-
1 機能性				2.4	0.40	3.8	1.00
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60
1 広さ・収納性		個室10㎡/床以上		-	-	5.0	1.00
2 高度情報通信設備対応		-		-	-	-	-
3 バリアフリー計画		-		3.0	1.00	-	-
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.0	0.40
1 広さ感・景観		-		-	-	3.0	0.50
2 リフレッシュスペース		-		-	-	-	-
3 内装計画		-		1.0	1.00	1.0	0.50
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-
1 維持管理に配慮した設計		-		3.0	0.50	-	-
2 維持管理用機能の確保		-		3.0	0.50	-	-
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80	-	-
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.6	0.30	-	-
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-		3.0	0.20	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:塩ビシート20年、壁:ビニルクロス20年 天井:ビニルクロス30年		5.0	0.10	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用		5.0	0.20	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20	-	-
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20	-	-
2 給排水・衛生設備		-		3.0	0.20	-	-
3 電気設備		-		3.0	0.20	-	-
4 機械・配管支持方法		-		3.0	0.20	-	-
5 通信・情報設備		-		2.0	0.20	-	-

3 対応性・更新性			2.7	0.30	3.0	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
1	階高のゆとり	-	3.0	0.60	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	-	3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			2.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	
1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性	-	3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性	-	3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.3
1 生物環境の保全と創出		-	2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		-	2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.9
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.77	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		-	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		-	2.0	0.50	-	-	2.0
	集合住宅以外の評価		2.0	1.00	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1	節水	-	3.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用	-	3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.2	0.60	-	-	3.2
2.1	材料使用量の削減	-	3.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	壁・天井:躯体と仕上材が容易に分別可能(LGS+GB-R)	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避	-	3.0	0.70	-	-	
1	消火剤	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
3	冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率87%	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1	大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音	-	3.0	0.50	-	-	
2	振動	-	3.0	0.50	-	-	
3	悪臭	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		○	○	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0		-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	6.0		-	-	3.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	2.0		1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	7.0		-	1.0	3.0	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0		1.0	-	-	3.0	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -
3.1.1 昼光率	昼光率 5.21、1.27
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 24.0%
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース - /人 病床 18.0㎡/床 シングル - ツイン -
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 - VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 - m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース - レストスペース -
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 - 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 - 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 - m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 -
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m2
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 69% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 54% 水平投影面積率 32% 地表面対策面積率 53% 舗装面積率 35%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m 0.77 断熱等性能等級 対象外 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%
3 設備システムの高効率化	太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
非住宅部分	BEI/BEI _m 再エネ有 0.84 無 0.84 オフサイト再エネ有 - -
集合住宅の評価	一次エネ削減率 再エネ有 無 -
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 0.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 129% 隣棟間隔指標Rw 0.86 地表面対策面積率 87.1% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積Sb 262㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 25.35 m 基準高さHb 7.99 m 緑地 409㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡